

Q15 ステロイド外用薬を長期使用することによって起こる問題点がありますか？

ステロイド外用薬を長期使用していると、塗布している間はよく効くか又はそこそこに皮膚症状が抑えられますが、やめるとすぐ悪化してくるため、なかなか減量や中止が出来なくなるステロイド依存性、さらにステロイド外用薬が効かなくなり、皮膚病変に塗布しても皮膚の炎症が抑えられず、むしろ赤みが増すようになってしまうステロイド抵抗性の問題があります。いずれもこうした現象は顔面で多いようです。このステロイド依存性の問題は、不安から患者の自己判断で突然中止してしばしばジュクジュクした滲出性の発赤腫張を来すような急性悪化(リバウンド)が生じるため、これがマスコミで過剰に取り上げられ、ステロイド恐怖症が生じる原因となっています。このようなステロイド軟膏使用上の問題が出てくる背景には、主剤のステロイド剤が、元々体内で造られるステロイドホルモンの誘導體で、速効性であり、しかも臓器毒性による副作用が少ないため、安易にステロイド軟膏の治療だけに偏り過ぎ、面倒な原因療法は軽視され易いこと、一方、ステロイド薬以外の治療薬は奏効するのに時間を要するとか、アレルギーや臓器障害が生じる副作用も多いことなどがあります。